

5カ国11人の現代アート作家

屋内外で作品制作・展示



制作中の中瀬康志氏

10月・青森
芸術創作工房プレ企画
市民参加シンポジウム

青森市で10月、国内外の現代アート作家ら11人を招いて芸術イベント「インターナショナル・アートのイスト・イン・レスパンス・青森」(Ist in Responce Aomori)が開かれる。この企画の趣旨と概要が12日、イベント実行委員会と市民芸術創作工房(仮称)「ディレクター」浜田剛樹氏から発表された。

企画は同市が平成十三年秋、合子沢地区に完成を予定している芸術創作工房の「プレイベント」として開催する。同工房は国内外を問わず芸術家に創作活動の場を提供し、一定期間滞在しながら作品づくりに取り組んでもらう。同時に市民との触れ合い、地域に溶け込んだ芸術の発信地を目指すというもの。

プレイベントには平賀町出身で、さまざまな素材を用いて屋内外の空間をも取り込んだ立体作品「インスタレーション」作家の中瀬康志氏をはじめ、青森市在住の彫刻家嶋瀬領夫氏、米国のインターメディアアーティストの先駆者フィル・ニコラフク氏など五方十人から参加。十月二日から十二日までの三週間、アーティストが青森公立大や青森港など市内数カ所で作成し、作品をそのまま展示する。期間中、市民参加のシンポジウムなども行われる。イベント実行委員会は素材や素材の調達などでアーティストの制作を手助けしたり、カタログなど各種印刷物、ホームページの作成といったサポート役の市民ボランティアを募集している。問い合わせは実行委員会(あおむりNPO)サポートセンター内、電話017-744-1100へ。